

授業科目名	舞台芸術論	担当教員	熊倉 敬聡 児玉 北斗 李 知映
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年第1クォーター		
講義内容	舞台芸術論では、主に舞台を用いた各種の表現行為と観客との相互関係（五感を通じたコミュニケーション）、そして野外劇も含めて劇場空間からそのつど生起する非（・超・反）日常的経験、さらにはそれによる知覚の刷新や世界認識の変容について、担当教員たちが演劇、バレエ、前衛的身体表現などの領域にわたりジャンル横断的に論じる。また、劇場空間と政治性、特に文化政策や植民地主義との関係について、そしてその空間で表現行為を行う者と観客をめぐる権力関係とそこからの逸脱の可能性について、国内外の多様な事例と理論を交えて探究する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生たちは、自らが何らかの形で今後舞台芸術に関わる際、それが行われる時空間が単に政治的にニュートラルな場ではなく、そこに多様な権力関係とそこからの逸脱の可能性を孕む場であることを絶えず自覚しながら、各々の現場に関わることができる。 ・そして、学生は、その舞台芸術の政治性が、時代や国により、またジャンルにより、いかに異なるかあるいは共通するかを、比較しながら学ぶことができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 舞台芸術と政治性（熊倉・児玉・李） 2. ダンス作品の曖昧さとアーカイブの困難（児玉） 3. 「ほんもの」の再演（児玉） 4. ただの動きではないということ（児玉） 5. ダンスは誰のものか（児玉） 6. ダムタイプ『S/N』と身体の政治性（熊倉） 7. 『S/N』における「作品の創造」と「場の創造」（熊倉） 8. ダムタイプと批評の不在（熊倉） 9. 日本における演劇と社会－「近代化」の彼方へ（李） 10. 劇場と専属団体の関係性（李） 11. 韓国における脱植民主義と演劇（李） 12. 国際交流と舞台芸術（李） 		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、授業の開始時に前回の授業内容についての振り返りを行うので、事前に復習しておくこと。 ・毎回の授業後、授業中に紹介した参考文献・資料等について自主的に学習すること。 		
テキスト	授業中に適宜配布する。		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
成績評価の基準	各担当者最終回の授業内ないし授業終了後に提出する小レポート3本(各20%×3=60%)および出席・平常点(40%)により評価する。		
履修上の注意 履修要件	特になし		
実践的教育	該当しない。		
備考欄	定員50名を超える場合は抽選とする。		